

社長はつらいよ

Facebookに経営コンサルタントの広告が出てきたので読んでみました。その経営コンサルタントは、要するに飲食店の経営改善に関する記事を投稿していたのですが、それに対して、飲食店経営者と思われる人が「経営コンサルタントは自分で飲食店を運営していないよ。」といったことをコメントしていました。

このやりとりには、経営コンサルタントの役割は何かという視点と経営コンサルタントのアドバイスを必要としているかという視点が混在しているので、別個に整理して考える必要があると思われるかもしれません。しかし、経営コンサルタント的要素も持つ士業としましては、上記のようなコメントをもらわないようにしたいものです。

さて、社長は全ての社内の業務を遂行できるわけではありません。指揮者は全ての楽器を演奏できるわけではありません。全ての医者が高齢なわけではありません。学校の先生は人生を遠観しているわけではありません。それども、彼らは人にモノを言わなければなりません。それが彼らの仕事だからです。

人にモノを言う立場の人は覚悟が必要ということなのだと思えます。人にモノを言うことは、時にはつらいものです。言いたくないことも言わなければならぬ時があります。会社、とりわけ中小企業では、社長が一番つらい思いをします。お金の心配、人の心配、仕事の心配のすべてを引き受けるのに、分かってもらえない場合があります。それども、社長は言い続けなければなりません。社長以外に信念をもって言える人はいないからです。

江幡 淳